



立正大学

総合案内 2025

## メッセージ

立正大学は、天正8(1580)年に日蓮宗の教育機関の一つとして、下総(現在の千葉県匝瑳市)に設立された飯高檀林に淵源をもつ由緒ある大学です。明治以降、近代的な学校制度が整備されるなか、大正13(1924)年に立正大学として設立認可を得て、9学部16学科7研究科を擁する総合大学となるまでに発展してきました。

現在、世界は情報通信技術やAIの急激な進歩を背景に、新しい産業革命期に入っていると考えられます。その中で、大学に求められる人材育成の在り方も、当然変化しています。立正大学は世界史的な視野をもって、今後の日本社会、そしてより広く国際社会に貢献していく人材を育成し、大学自体もさまざまな形で社会貢献していきたいと考えています。

立正大学は仏教の教えに根差した「真実の探究」「正義の追求」「平和の願い」を建学の精神、「『モラリスト×エキスパート』を育む。」を学園メッセージとして掲げ、豊かな倫理観と高い専門性を兼ね備えた人材を育てることを目指しています。ここでいう『モラリスト×エキスパート』は「足し算」ではありません。豊かな精神性と専門性を併せ持ち、そのベクトルがより良い方向を向く「掛け算」なのです。答えを急ぐのではなく、持続的に探究する。それこそが立正大学が目指す方向だと思っています。

立正大学は、学生が未来を切り拓く力を育む場、地域社会や国際社会に貢献する知的拠点であり続けます。また仏教の教えにある平和の希求や地球環境を大切にする視点に立ち、持続可能な社会の実現に向けた取組を強化していきます。そして学生一人ひとりが人生の拠り所となる真実を見つけ、明るい未来を拓いていこう、全力でサポートしてまいります。



立正大学長 北村 行伸

## 略沿革

|      |         |                                                                                                                                            |
|------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1580 | 天正 8 年  | 日蓮宗の教育機関として下総国飯高郷(千葉県匝瑳市)に飯高檀林を開設                                                                                                          |
| 1872 | 明治 5 年  | 東京芝二本榎(港区高輪)に小教院(のちに宗教院に改称)を設立【立正大学開校の起点】                                                                                                  |
| 1875 | 明治 8 年  | 飯高檀林を廃止し、宗教院を大教院に改組<br>学祖・新居日薩が大教院にて開講式を挙行                                                                                                 |
| 1904 | 明治 37 年 | 東京府下荏原郡大崎村谷山ヶ丘(品川区大崎)に日蓮宗大学林を設立<br>小林日董が大学林長(初代)に就任<br> |
| 1907 | 明治 40 年 | 日蓮宗大学林を日蓮宗大学に改組                                                                                                                            |
| 1919 | 大正 8 年  | 財団法人日蓮宗大学を設立                                                                                                                               |
| 1924 | 大正 13 年 | 大学令により立正大学の設立が認可<br>文学部(宗教学科・哲学科・社会学科・史学科・文学科)、予科、研究科を設置<br>財団法人日蓮宗大学を財団法人立正大学に改組                                                          |
| 1925 | 大正 14 年 | 日蓮宗大学を立正大学専門部に改称し、宗教科、国語漢文科、歴史地理学科を設置                                                                                                      |
| 1947 | 昭和 22 年 | 文学部に地理学科を設置                                                                                                                                |
| 1949 | 昭和 24 年 | 学校教育法による新制大学として認可<br>第Ⅰ部〔昼間部〕に 仏教学部(宗学科・仏教学科)、文学部(哲学科・史学科・国文学科・社会学科)、第Ⅱ部〔夜間部〕に 仏教学部(宗学科)、文学部(史学科・文学科・社会学科・地理学科)を設置                         |
| 1950 | 昭和 25 年 | 文学部英文学科〔第Ⅰ部、第Ⅱ部〕、経済学部(経済学科)〔第Ⅰ部、第Ⅱ部〕を設置<br>立正大学短期大学部を設置                                                                                    |
| 1951 | 昭和 26 年 | 財団法人立正大学を学校法人立正大学学園(立正大学・同短期大学部・立正高等学校・立正中学校)に改組<br>立正大学専門部を廃止<br>大学院文学研究科を設置                                                              |
| 1952 | 昭和 27 年 | 石橋湛山、第16代学長に就任<br>学長在任中に、大蔵大臣、通商産業大臣、第 55 代内閣総理大臣に就任                                                                                       |
| 1957 | 昭和 32 年 | 文学部〔第Ⅰ部〕に地理学科を設置                                                                                                                           |
| 1967 | 昭和 42 年 | 熊谷キャンパスに教養部を設置(熊谷キャンパスの開設)<br>経営学部(経営学科)を設置                                                                                                |

|      |         |                                                                                                                  |
|------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1981 | 昭和 56 年 | 法学部(法学科)を設置                                                                                                      |
| 1986 | 昭和 61 年 | 文学部英文学科を文学部<br>英米文学科に改称<br> |
| 1988 | 昭和 63 年 | 大学院経済学研究科を設置                                                                                                     |
| 1992 | 平成 4 年  | 開校120周年<br>                 |
| 1994 | 平成 6 年  | 大学院法学研究科を設置                                                                                                      |
| 1995 | 平成 7 年  | 教養部を廃止                                                                                                           |
| 1996 | 平成 8 年  | 社会福祉学部(社会福祉学科、人間福祉学科)を設置                                                                                         |
| 1998 | 平成 10 年 | 地球環境科学部(環境システム学科、地理学科)、大学院経営学研究科を設置                                                                              |
| 2000 | 平成 12 年 | 大学院社会福祉学研究科、大学院地球環境科学研究科を設置                                                                                      |
| 2001 | 平成 13 年 | 短期大学部を廃止                                                                                                         |
| 2002 | 平成 14 年 | 心理学部(臨床心理学科)を設置<br>文学部国文学科、英米文学科を統合し、文学部文学科を設置<br>第Ⅱ部〔夜間部〕を廃止                                                    |
| 2004 | 平成 16 年 | 大崎キャンパスに総合学術情報センター竣工<br>大学院心理学研究科を設置                                                                             |
| 2011 | 平成 23 年 | 心理学部に対人・社会心理学科を設置                                                                                                |
| 2012 | 平成 24 年 | 開校140周年<br>社会福祉学部人間福祉学科を子ども教育福祉学科に改称                                                                             |
| 2014 | 平成 26 年 | 大崎キャンパスの名称を品川キャンパスに変更<br>法学部および法学研究科が2014年度入学者より品川キャンパスに履修校地変更                                                   |
| 2017 | 平成 29 年 | 熊谷キャンパス開設50周年                                                                                                    |
| 2021 | 令和 3 年  | データサイエンス学部(データサイエンス学科)を設置                                                                                        |
| 2022 | 令和 4 年  | 開校150周年                                                                                                          |

# 建学の精神と本学の使命

## ● 社会的ミッションと建学の精神

本学の淵源は1580年に開設された日蓮宗の教育機関・飯高檀林にまで遡り、校名は日蓮聖人の『立正安国論』に由来しています。その要諦は、『『正しき』を立て(＝立正)、国や社会、人々の安寧・和平の実現のために尽くす(＝安国)』ということにあります。これが本学の社会的ミッションであり、立正精神です。大学としての建学の精神は、第16代学長・石橋湛山の時代に次のとおり策定されました。

- 一、真実を求め至誠を捧げよう
- 一、正義を尊び邪悪を除こう
- 一、和平を願い人類に尽そう

「真実」「正義」「和平」という三つのキーワードは、上述の社会的ミッションを基底に据えて解釈すれば、教育研究活動上、客観的契機としての「真実」と主体的(人格的、社会的)要素としての「正義」を探究し、もって「和平」の実現を図るという、手段(前二者＝立正)と目的(後者＝安国)の関係にあることが分かります。そして、何のための教育研究かという、目的に当たるという意味で最も重要な「和平」とは、単に戦争の反意語ではないはずです。より積極的に、人々や社会が暴力、格差、不正、環境破壊などから免れ、人間・生物の多様な個性や価値を尊重し、地球市民・生態系の一部として互いにつながり、支え合い、相乗的・共創的に生かし生かされながら、心豊かで持続可能な状態にあることを指すと言っていいでしょう。本学は最高学府として自らに課された公共的・社会的な役目を以上のように自覚し、実践しています。

## ● 「モラリスト×エキスパート」

立正大学学園は、『『モラリスト×エキスパート』を育む。』を学園メッセージとして掲げています。この学園メッセージは、立正精神を現代に受け継ぎ、立正大学の建学の精神「真実・正義・和平」を実践するうえでの指針となるものです。「モラリスト×エキスパート」とは、「予測不可能な時代」とも言われる現代において、私たちが生きている／生かされているこの世界をより良いものにしていく、それを叶えるための資質・能力を備えた人物像です。具体的には、以下の6つの要素に表されます。

「モラリスト×エキスパート」を体現する人物像

- 自らの持ち味を知っている
- 積極的なチャレンジと好きの探求で自分の専門に出会うことができる
- 自分を律しながら、役割と能力を発揮できる場をつくることのできる
- 物事の背景やその本質に目を向け、慮(おもんばか)ることのできる
- 社会の課題をポジティブに変換する「新しい当たり前」を生み出せる
- 社会や人の喜びを自分の喜びにすることができる

羅針盤なき混沌とした時代だからこそ、社会への積極的なコミットメント(関わり合い)の中で、人の喜びや悲しみを受け止め、それらをつなぎ、活かしながら社会に貢献できる人材。そのような、単なる道徳心や倫理観以上の多面的な広がりの中身のある「モラリスト」と、一人ひとりが「これだ!」と探求したくなる専門分野。どちらがゼロでも成り立たない、「+」(たす)ではなく「×」(かける)ことで生まれる私たちが目指す人間性。立正大学は、学生一人ひとりの学びをしっかりと支え、そのための一歩を後押しします。そして、本学の学生・卒業生・教職員など、本学を構成する一人ひとりが「モラリスト×エキスパート」人材となることで、世の中の「和平」に貢献していきます。



## ● 立正人・石橋湛山

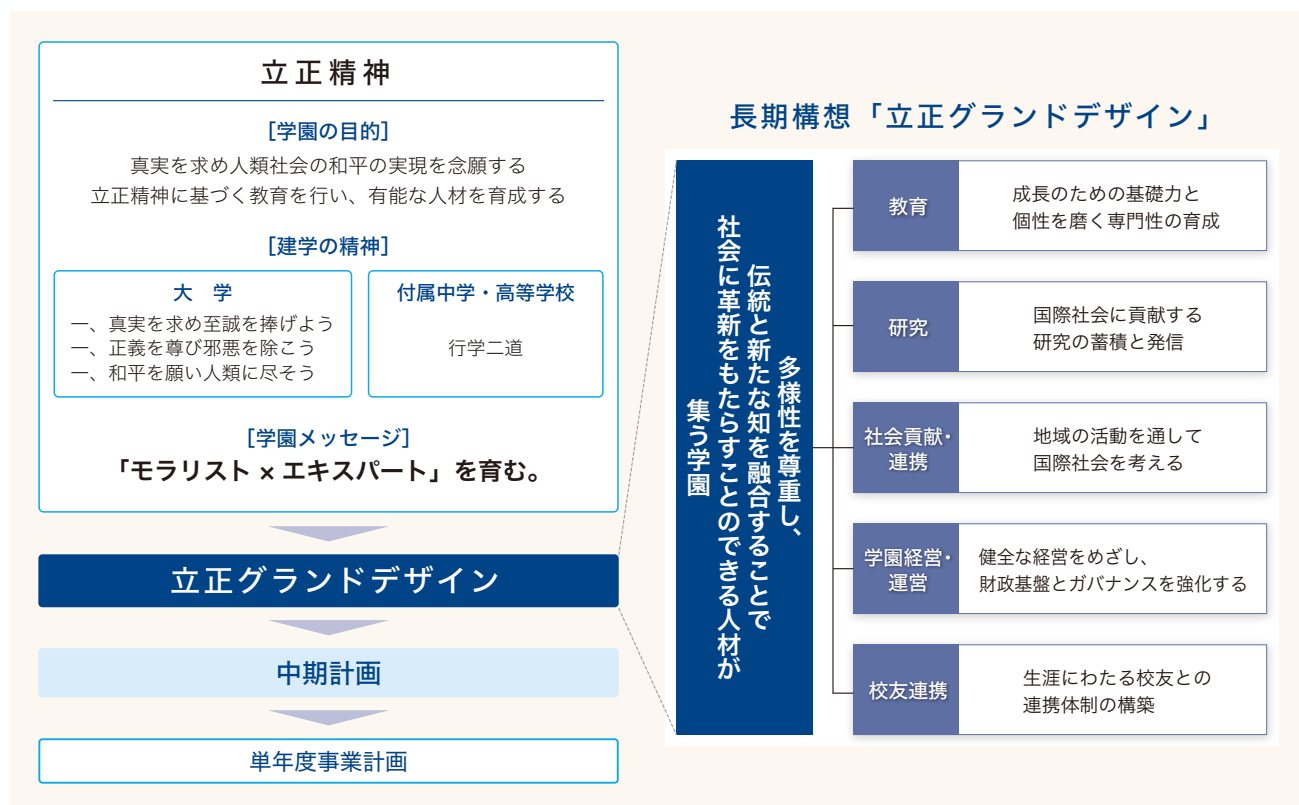
石橋湛山は、立正精神を生涯貫いた人物です。戦中戦後の狂瀾怒濤の時代にあっても、リアルで実証的な視点・データをもって、軍国主義、帝国主義を批判し、自由主義、民主主義、平和主義を唱え続けた言論人として知られています。戦後、「日本のケインズ」と称され、大蔵大臣、通商産業大臣を歴任後、第55代内閣総理大臣にもなる湛山は、1952年からの16年間、83歳まで本学の学長を務めました。本学での湛山は、大学の財政基盤を建て直し、総合大学への道を切り開きました。また、自らも教壇に立って金融論を講義しました。

決して単なる理想論に陥ることなく、不撓不屈の精神で思想・理論の社会的な実践を行ってきた石橋湛山は、戦後、立正大学の礎を築いた、文字どおりの立正人です。

第16代立正大学学長時代(1952～1968年)の石橋湛山

# 学園長期構想および中期計画

立正大学学園は、開校150周年を迎えた令和4(2022)年に、永続的に学園を発展させていくための指針となる長期構想「立正グランドデザイン」を策定しました。本構想では、本学園がこれまで培ってきた歴史や伝統と革新とが融合する、新たな学園の姿を示しています。



## 第2次中期計画および単年度事業計画

長期構想「立正グランドデザイン」を具現化していくための第1フェーズとして、5か年の行動計画である第2次中期計画(2023～2027年度)を策定しました。第2次中期計画では、以下の観点から39個の具体的なアクションプランを立案し、各年度策定する事業計画において具体化を図り確実な実行に結び付けています。

### 【第2次中期計画 基本方針と5つのフレーム】

基本方針：社会ニーズへの対応とオリジナリティの確立

#### 1 教育の質向上(大学・大学院・中高)

— 教学マネジメント体制の強化等を通じた学修者本位の教育へのより一層の転換

#### 2 研究活動の活性化 — 本学園の特色を活かした異分野研究活動によるイノベーションの創出

#### 3 社会貢献・連携 — 社会ニーズを捉えた活動の推進と教育活動への実装

#### 4 学生受入・支援 — 多様な生徒・学生・教職員がお互いの個性を認めあうキャンパスづくり

#### 5 経営基盤強化 — 教育研究活動の持続可能な発展と整備および学園改革を進めるための基盤強化

※長期構想および中期計画の詳細は本学公式ホームページ(下記URL)よりご覧ください。

[https://www.ris.ac.jp/rissho\\_school/about\\_school/index.html](https://www.ris.ac.jp/rissho_school/about_school/index.html)



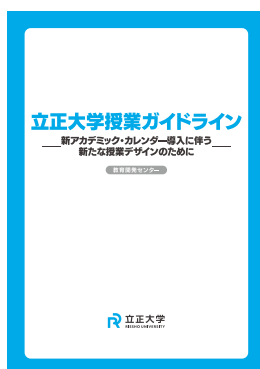
# 教育改革と新たな内部質保証システム

## ●教育改革

2022年の大学設置基準の改正により、各授業科目の授業期間について「大学の判断により多様な期間が設定できる」ことが明確化されました。この改正を受け、本学では2025年度からアカデミック・カレンダーを変更することとしました。

従前と同じ総授業時間を確保しつつ、これまで半期15週(回)だった授業回数を13週(回)とし、ゆとりをもった学年暦を作り上げるとともに、1コマ当たりの授業時間を90分間から105分間とすることで、多様な教育方法を取り入れた授業を展開し、一層の教育効果を高めることを目的としています。また、授業実施期間を短縮することで、春期・夏期の長期休業期間を利用して、海外留学やインターンシップ、ボランティア活動等の様々な課外活動への参加機会を学生に確保するという側面もあります。

105分間の授業では、柔軟で多様な授業実施が期待され、アクティブ・ラーニングなど多様な教育手法を授業に導入することが可能となります。学生の学修成果の向上を目的に、教育開発センターで『立正大学授業ガイドライン』(資料1-1、資料1-2)を作成し、すべての授業担当教員に示し、各々の創意工夫により教育効果の高い授業を展開できるよう対応しています。『立正大学授業ガイドライン』には、2024年度に導入した学習管理システム「Open LMS」の活用方法などを収録し、オープン教材の利用やオンデマンド教材の利用を推進し、各授業における教育効果の向上を図っていきます。上記、アカデミック・カレンダー変更に伴う様々な取り組みについては、FD・SD活動を通じ学内での共有を図り、更なる教育改革の発展に繋げていく予定です。



資料1-1:『立正大学授業ガイドライン』

## ●新たな内部質保証システム

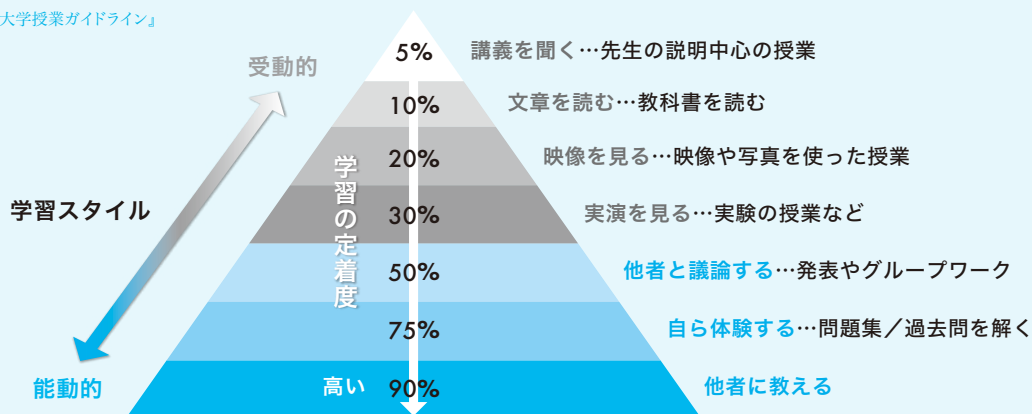
公益財団法人 大学基準協会の認証評価は、2025年度より新たな評価基準による第4期認証評価がスタートしました。本学は、2029年度に第4期認証評価の受審を予定しています。新たな評価基準に対応すべく、2024年度より内部質保証システムの見直し、各種方針類の再整備、内部質保証評価システムの構築を進め、2024年度はポリシーベースの点検方法確立に着手しました。

具体的な作業は、高等教育研究機構会議を中心に、各教育課程および専攻・コースごとのディプロマ・ポリシー(以下、DP)を検証するための指標・基準の点検を行い、アセスメント可能なDPを定め、カリキュラム・ポリシー(CP)との関連性の整備を行いました。

2025年度には、新たな点検方法と認証評価への対応を踏まえ、具体的な評価方法の確立に向け取り組んでいく予定です。教育開発センター内の教育開発部会を中心に、点検主体毎の経年変化や各点検主体間の比較状況等を可視化し、定量的項目や定性的項目はグラフや表で点検結果を確認できるような点検方法の開発を進めています。また、点検・評価活動を具体的な改善に結び付ける学内プロセスの確立についても検討を進める予定です。



資料1-2:『立正大学授業ガイドライン』



### ラーニングピラミッドとは？

アメリカ国立訓練研究所が発表した、学習定着度を表したピラミッド図。教員の一方的な講義だけでは定着度が低く、学修成果の観点からは、学生が能動的に、学ぶスタイルに授業をデザインし直していくことがいかに大切かがわかります。

# 学部・学科／大学院研究科

## 仏教学部

### 宗学科／仏教学科

仏教学部は、本学の建学の精神を直接的に継承する学部です。「仏教の知的体系と人間探求に関する教養および専門的知識を修得し、広く社会に貢献しうる人材を養成すること、およびそのために必要な教育研究を行うこと」を教育の目的としています。1・2年次における

学問研究の基礎と仏教全般についての学修と、3・4年次における宗学科(日本仏教コース/法華仏教コース)・仏教学科(思想・歴史コース/文化・芸術コース)の専門的な学修を通じて、仏教の「智慧」とともに、現代社会を生きぬくための「人間力」を養います。

※2025年度より、以下の通りコース名が変更されます。

日本仏教コース→日本宗教・文化コース、思想・歴史コース→歴史・思想コース、文化・芸術コース→文化遺産・芸術コース

## 文学部

### 哲学科／史学科／社会学科

文学科(日本語日本文学専攻コース、英語英米文学専攻コース)

文学部の教育目標は、「文化を支え理解し、新たに創造する力」を備えた個人を育成し、「文化」に関わるさまざまな分野のエキスパートとして社会に貢献しうる人材を世に送り出すことです。各学科・専攻コースでは、専門的知識だけでなく幅広い教養をも身につけ、柔軟な思考力と応用力の育成を目指した教育をしています。必修科目である卒業論文の執筆を通じて、課題を設定して分析し、考察する能力も養われます。

### 大学院 文学研究科

仏教学専攻、英米文学専攻、社会学専攻、史学専攻、国文学専攻、哲学専攻を擁する本研究科は、1951年創設の長い伝統を有しつつ、時代の変化に対応した教育と研究を推進しています。いずれの専攻にも修士課程と博士後期課程があります。奨学金をはじめ、単位互換・長期履修・出版助成などの諸制度を整え、さらなる学びを求める人すべてに門戸を開いています。

## 経済学部

### 経済学科

経済学部は、自ら課題を発見し、解決できる思考力・行動力を持った人材を育成することです。「経済学」「国際」「金融」の3コース制のもと、特に少人数教育を重視しており、1年次はクラス制を設け、2年次から4年次までは専門ゼミナールを通じて考える力を涵養しています。また、現役のジャーナリストを招いて行う授業や、学生自身で企業への取材を行うことを通じて、インターンや就職活動で実践的に使えるビジネススキルを学ぶ授業など、特色ある授業も開設しています。

### 大学院 経済学研究科

経済学研究科には、「経済システム研究コース」に加え、特に環境保全や資源エネルギー問題に焦点を当てた「環境システム研究コース」、地域経済の課題を国際的な視野の下に研究する「地域システム研究コース」の3コースがあり、理論科目とともに統計データに基づく実証分析の科目も充実させ、大学院生のさまざまな問題意識に応えることに努めています。また、留学生を積極的に受け入れるとともに、社会人教育にも力を入れています。

## 経営学部

### 経営学科

経営学部は、「心豊かな産業人の育成」を理念とし、多くの産業人を輩出してきました。50年以上の伝統を誇りますが、常に先取の精神を持ち、教育の革新に努めています。カリキュラムでは、理論教育にとどまらず、実務家による授業を設けるとともに、ゼミナールにおいては現代社会に対応した活動を展開し、「人間力」や「共創力」の養成を進めています。PCを全員に貸与し、スキル教育を行っているのも大きな特徴です。

### 大学院 経営学研究科

多様化する研究ニーズに応え、経営学研究科では2つのコースを設けています。「アカデミック・コース」では講義科目と研究指導(税理士志望者のための論文指導も含む)により、修士論文を作成します。また、社会人ニーズに対応した「ビジネス・ソリューションコース」では講義科目に加え、専門家と専任教員の複数体制による演習指導を通して、ビジネス現場での課題解決に向けた研究成果を実務指向的「研究成果報告書」にまとめます。

## 法学部

### 法学科

法学部は、法の成り立ち、仕組み、あり方を探求することによって、法的素養を有する指導的職業人の育成を目指しています。将来の志望に合わせて「特修」「ビジネス法」「社会公共」の3つのコースを設置。少人数制の教育を重視し、1年次はクラス制を設け、専門のゼミナールには2年次から卒業まで3年間参加することができます。また、資格試験や公務員試験などの受験対策指導にも力を注いでいます。

## 社会福祉学部

### 社会福祉学科／子ども教育福祉学科

社会福祉学部では、高度な福祉社会の実現と教育に寄与する人材を育成しています。社会福祉学科ではソーシャルワークコース、教育福祉・社会デザインコースを開設しており、社会福祉士・精神保健福祉士(受験資格)、特別支援学校教諭の資格・免許の取得が可能です。子ども教育福祉学科では教育・福祉・心理の学びを通し、子ども達への教育や援助の知識と実践力を養い、小学校教諭、幼稚園教諭の免許、保育士の資格の取得が可能です。

## 地球環境科学部

### 環境システム学科／地理学科

地球環境科学部には、理学系の環境システム学科と、長い伝統を誇る文理融合系の地理学科があります。ともに国内外のさまざまなフィールドでの環境問題・地域の諸課題を学修する実践的授業と、最新機器や豊富な地図を活用した少人数制授業を行っています。また、地理情報システム(GIS)やリモートセンシングなどコンピューターを用いる実習も特色の一つとし、所定の単位取得による測量士補などの国家資格の取得のほか、気象予報士や旅行業務取扱管理者などの受験指導も行っています。幅広い視野と高度な専門技術を身に付けた優秀な人材を輩出しています。

## 心理学部

### 臨床心理学科／対人・社会心理学科

2002年に創設された首都圏で最初の心理学部です。臨床心理学科では、カウンセリング等の心理的援助に関心のある学生が学び合う「場」を提供し、心の専門家を育成しています。対人・社会心理学科は、社会で生活している人の心理や行動が、周囲からどのような影響を受け、また影響を与えているのかを学ぶ、全国初の学科です。両学科とも2018年より公認心理師養成カリキュラムにも対応しています。

## データサイエンス学部

### データサイエンス学科

データサイエンス学部は、データサイエンスの様々な分野での実績を持つ教授陣による講義と、実際にデータを用いてビジネス・モデルを展開している企業や組織との連携によるインターンシップやフィールドワークといっ

### 大学院 法学研究科

法学研究科は、1994年に創設された昼夜開講制の大学院です。法学研究科の教育研究上の目的は、専門的職業人・公務員養成のための法学教育と、専門的職業人・公務員等へのリカレントのための法学教育を通して身につけた法律専門知識・法的推論能力を、リーガル・マインドに基づき、社会において適正に活用できる人材を養成することおよびそのために必要な教育研究を行うことです。

### 大学院 社会福祉学研究科

社会福祉学研究科では、「理論と実践の両立」を教育理念に掲げた教育課程を編成しています。修士課程では、社会福祉学専攻を設置し、「ゼミナール群」と「研究特論群」を、博士後期課程では、社会福祉学専攻を設置し、「研究指導科目群」と「特殊講義科目群」を配置しています。特に、社会人学生に対しては、研究と就業を往還できるリカレント教育に力を入れています。

### 大学院 地球環境科学研究科

さまざまな規模の環境問題に適切に対応するには、広い視野と深い専門知識、そして確かな技能が必要です。地球環境科学研究科はそうした人材の養成を目指した、地理空間システム学専攻と環境システム学専攻からなる文理融合型大学院です。両専攻とも博士前期(修士)・後期課程を有し、それぞれ4～5分野から構成され、「人間活動と地球環境」「フィールドサイエンス」といったキーワードを共有して地球社会への積極的な情報発信に努めています。

### 大学院 心理学研究科

心理学研究科は、修士課程3専攻(臨床心理学専攻、応用心理学専攻(2024年度以降の学生募集停止)、対人・社会心理学専攻)と、博士後期課程(心理学専攻)を擁しています。臨床心理学専攻は、臨床心理士、公認心理師の受験資格を担保し、応用心理学専攻は、認知・行動・教育におよぶ心理学的研究を行い、対人・社会心理学専攻は、人と社会の関わり合いの理論的・実証的研究を行っており、広く門戸を開いています。心理学専攻では、最新の専門的理論と実践的方法論の研究に努めています。

た実践的な学びによる「文理融合型」のカリキュラムで、データサイエンスを広く実社会に応用し、ビジネスをはじめとした社会のあらゆる現場で新たな価値を生み出す即戦力となるデータサイエンティストを養成します。



# 研究推進・社会貢献についての取り組み

## ● 研究推進・社会貢献センター

立正大学における研究支援や地域連携に関する窓口として、地域・自治体や企業・団体の皆様との連携をサポートするため、2011年4月に発足しました。科学研究費助成事業(科研費)をはじめとする競争的資金の獲得および受託研究事業の受入、各研究・連携事業における外部と研究者との円滑な協力関係の維持、促進を目的として包括的な研究支援を行っています。

また、地域社会への開放的・知的な貢献に応えることも大学の使命であると考えことから、本学の知の資産である研究者を中心に地域連携も積極的に行っています。

## ● 学内研究助成

### センター支援費

本学では、教育・研究活動に意欲的な研究者を支援するため、独自の支援制度「センター支援費」を設けています。支援内容は主に学内の異なる学部による共同研究、産学官連携のための研究、科研費に申請するための補助金、学生教育を伴った地域貢献に資する教育・研究などです。



### 研究成果公開促進費(国内)

本学における優れた研究を、学内外に広めることを目的として助成を行うものです。論文を学術雑誌に投稿するために必要な経費を助成する「学術論文投稿助成」と、研究成果を出版するために必要な経費を助成する「出版助成」の2種類から成っており、優れた研究成果の公的流通の促進を目指しています。

### 研究成果公開促進費(国際)

本学における優れた研究を、世界に発信することを目的として助成を行うものです。論文を国際学術誌に投稿するために必要な経費を助成する「学術論文投稿助成」と、研究成果を海外で出版するために必要な経費を助成する「海外での出版助成」の2種類から成っており、本学の研究者および大学院生の国際化を推進しています。



## ● 受託・共同研究

本学では、企業・自治体・他大学等のさまざまなニーズに応じて、連携事業、受託研究、共同研究を行っており、1年単位の調査・分析から、多年度にわたる大規模な研究開発など新たな知見の創出、課題解決に向けた取組を幅広く委託されています。例として、株式会社ニチイ学館及び国立大学法人東京学芸大学と三者で行っている共同研究(保育園向け「STEAM教育プログラム」の研究・開発)では、本学社会福祉学部・山田修平准教授が幼児教育の視点から参画し、プログラム案の作成などに取り組んでいます。また、データサイエンス学部・白木洋平教授は、熊谷市からの委託を受け、住みやすい街づくりの実現を目的とした『暑さ(気象)』に関するデータの観測や活用方法の検討について地域市民や地元企業とともに取り組みました。このように企業・自治体・他大学等と連携し、または委託を受け、本学が有する知見やノウハウを活かして社会・地域に貢献するための窓口として研究推進・社会貢献センターでは各種サポートを行っています。





## ● 地域連携

本学では、教育と研究を中心とした伝統的な活動にとどまらず、地域社会への開放的・知的な貢献に応えることが大学の使命と考え、本学の知の資産である研究者を中心に地域連携を積極的に行っています。研究推進・社会貢献センターをはじめ、学部、学科において教育と研究の推進を図り、地域との連携を進めています。

### 行政との連携

本学ではキャンパス近隣の自治体を中心に連携協定を締結し、地域課題解決への協力やまちづくり施策への貢献を推進しています。

#### 〈主な連携協定締結自治体〉

東京都品川区、埼玉県熊谷市、埼玉県東松山市、埼玉県滑川町、埼玉県秩父市、千葉県鴨川市、千葉県匝瑳市、北海道東川町

#### ■熊谷市産学官連携まちづくりフォーラム

立正大学、熊谷市、熊谷商工会議所、くまがや市商工会の四者が2007年に締結した「産学官連携に関する基本協定書」の意思に基づいて、地域社会の発展と人材育成を目指す「協働によるまちづくり」の一環として開催しています。

### 生涯学習事業

#### ■デリバリーカレッジ

総合大学としての本学の特色を生かし、知的財産を広く社会に還元し地域の皆様に活用していただくために、本学から多岐にわたる分野の教員を各自治体に派遣して講座を開催しています。

#### ■市民大学

地域で行われる市民大学などに教員を講師として派遣し、地域の皆様の生涯学習に対するニーズに応えています。

#### ■公開講座

社会に開かれた学びの場を積極的に提供するために、大学および学部主催の公開講座を、品川、熊谷の両キャンパスで開催しています。  
例)しながわ学、立正オープンカレッジなど

#### ■子ども大学くまがや・なめがわ

子どもの学ぶ力や生きる力の向上および大学や教育委員会などの連携による地域の教育力の向上を目的に開催されています。



## 大学間連携

教育機関、大学等との連携も積極的に進めています。

#### ■大学間包括連携協定

清泉女子大学、埼玉県農業大学校と包括連携協定を締結し、施設相互利用や合同職員研修、共同研究などを実施しています。

#### ■しながわ大学連携推進協議会

品川区と大学が包括的な連携のもと、教育・文化、健康・福祉、産業・観光、環境、まちづくり等の政策で協力し、区における地域社会の課題解決および大学の教育・研究機能の向上と地域社会の発展を図ることを目的に設立されました。

#### ■埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)

地域の20大学・短期大学および自治体・企業で構成するプラットフォームに参画し、地域活性化を目的に大学間の連携を生かしたさまざまな取り組みを展開しています。

## 企業との連携

#### ■立正大学商品開発プロジェクト

地元企業と協働して、立正大学オリジナル商品の開発を行っています。学生の発想や得意技能と企業の商品力を掛け合わせ、これまで『オリジナル日本酒』や『オリジナルお茶』などを制作しました。プロジェクトを通して、学生が課題の発見・解決方法を主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」の実現と、地域社会との連携深化を目指しています。

#### ■一般社団法人埼玉県中小企業診断協会との連携

本学は、2024年2月に埼玉県内の中小企業や事業所に地域密着型の支援活動をしている、(一社)埼玉県中小企業診断協会と包括連携協定を締結しました。450名を超える中小企業診断士が所属する当協会を申請事業者とし、経済産業省の令和5年度「高等教育機関における共同講座創造支援事業」に採択され、中小企業診断士向け講座を実施しました(共同講座の名称:DX人材・支援人材育成講座)。学生のみならず社会人向けの講座も充実させ、企業人を育成する事業を展開していきます。

## ● ボランティア活動推進センター

当センターは通称ボラセンと呼ばれており、ボランティア活動の紹介やサポート、講座等を開催し、ボランティア活動のきっかけづくりを行っています。ボラセン主催のボランティアプログラムもあり、誰もが利用・参加しやすいセンターを目指しています。



立正大学熊谷キャンパス17号館1階

TEL/FAX 048-539-1386

EMAIL v-cen@ris.ac.jp

OPEN 平日10時～17時(13時～14時閉室)

※長期休暇中は週3日の開室



# グローバル化への対応

## ● 海外での教育・研究活動の展開 (中央アジア：ウズベキスタン)

2014年度から学園ブランディング事業として「立正大学ウズベキスタン学術調査隊」を結成し、学術貢献と文化交流の促進に努めてきました。仏教学部・文学部・地球環境科学部の教員から構成されるメンバーは、現地機関と協力してウズベキスタン南部に所在する1～3世紀の仏教遺跡(カラテペ、ズルマラ)の調査をおこなってきたほか、中央アジアの特徴ある地理・宗教・食べ物に着目して、地理学やツーリズムの観点からも研究を展開中です。

最近では、2023年度にタシケント国立東洋学大学とツーリズムに関する研究を軸として協定を結び、2024年度には地球環境科学部所属の学部生たちが、教員の指導のもと現地調査活動を展開しました。また2024年度に科学アカデミー芸術学研究所と、前2～4世紀の巨大都市遺跡ダルヴェルジンに関する発掘調査協定を結びました。ダルヴェルジンは、シルクロードの要衝に位置し、都城内に仏教寺院の遺構も発見されていますが、都市の全貌はいまだに不明です。

ウズベキスタン共和国はイスラム教徒が大半をしめ、ウズベク語とロシア語が主要言語であることから、日本では印象が薄くなりがちですが、異文化や自然に触れることで自国や世界の現状が、よりはっきりと認識できるものです。現地の古代仏教遺跡が取り持つ縁をいかして、今後も立正大学らしい海外との学術・文化交流を展開していきます。



仏教学部研修によるズルマラ遺跡訪問



アレクサンダー大王や玄奘が通過した鉄門付近

## ● 国際交流の推進(国際交流センター)

本学では、グローバル社会で活躍できる国際感覚に優れた学生の養成を目指し、国内外の学生に向けたさまざまな取り組みに力を入れています。

各種留学・研修制度や語学講座、語学検定試験受験料補助制度を設け、学生の海外派遣・語学力向上のサポートを行っています。また、年間約190名の外国人留学生を受け入れており、授業料減免制度や留学生のための日本語教室などの支援を行っています。さらに、留学生との交流を目的とした国際交流会やピア・サポート制度等、さまざまな国際交流の機会を提供しています。



短期海外研修(語学研修：ニュージーランド)



# 学生生活支援

## ●奨学金制度

本学学生の修学を支えるため、奨学金制度の充実に努めています。

### 大学独自の奨学金制度

- ① 立正大学チャレンジ奨学生〈給付〉※<sup>1</sup>
- ② 立正大学特別奨学生〈給付〉※<sup>1</sup>
- ③ 立正未来エール奨学金〈給付〉※<sup>1</sup>
- ④ 立正大学学部橋経済支援奨学生〈給付〉
- ⑤ 立正大学セカンドキャリア支援奨学生〈給付〉
- ⑥ 立正大学校友会成績優秀奨学生〈給付〉
- ⑦ 立正大学学業継続支援奨学生〈減免〉
- ⑧ 立正大学大学院学業継続支援奨学生〈給付〉
- ⑨ 立正大学大学院橋経済支援奨学生〈給付〉※<sup>2</sup>
- ⑩ 立正大学大学院研究科別奨学生〈給付〉

※<sup>1</sup> 受験生対象

※<sup>2</sup> 大学院在籍生および入学予定者対象

### その他の奨学金制度

- ① 日本学生支援機構奨学金〈貸与〉
- ② 国の修学支援新制度〈給付+減免〉※

※ 令和7年度からの多子世帯支援も含む

その他にも留学関連のものや、地方公共団体、民間財団等が実施する奨学金があります。

### 立正大学の奨学金制度

立正大学の奨学金はすべて **給付型**

| 経済支援                                                                                                                                                 | 成績優秀者支援                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <p>立正未来エール奨学金<br/>学部橋経済支援奨学生<br/>セカンドキャリア支援奨学生<br/>学業継続支援奨学生</p> |  <p>チャレンジ奨学生<br/>特別奨学生 (TOP150)<br/>校友会成績優秀奨学生</p> |

## ●在学生へのケア

快適な学生生活を送るために、学生生活課、校医、保健室、学生カウンセリングルーム、障害学生支援室、キャリアサポートセンター、学部が連携し、生活相談、心身の健康相談、キャンパス・ハラスメントの相談にあたっています。また、在学生の心と身体の健康問題に常時応えることができるように外部の専門業者と連携し、電話による健康相談を実施しています。

### 学生カウンセリングルーム

学生カウンセリングルームは、学生が大学生活を送っていく中で出会うさまざまな問題について相談できるところです。専門のカウンセラーがお話を聞きながら一緒に考えて、問題解決のお手伝いをします。

### 障害学生支援室

障害学生支援室は、心理や福祉の専門職であるコーディネーターが障害のある学生に対して修学支援の相談に応じ、学部・研究科や関係部署と連携して支援にあたっています。事前の資料提供やノートテイクなどの授業時の支援、補助具の持ち込み許可や試験時間の延長などの定期試験時の配慮といった、学生の障害の状況にあわせた合理的配慮の支援の提供に関する調整を行っています。

## ●課外活動

本学では課外活動を正課外教育として、社会性・人間性を涵養する重要な活動と位置づけています。課外活動・サークル団体数は100近くあり、学術、文化、スポーツ、そして大学祭を運営する実行委員会など、さまざまな団体が趣味や目的を共有する仲間と充実した学生生活を送っています。

### 課外活動の活性化

学生による、さらなる主体的課外活動の活性化を図るため、課外活動で顕著な成績を収め、課外活動の振興・発展に貢献した団体・個人を顕彰しています。





# 学術情報セクター(図書館・博物館・文書館)

## ● 図書館

品川と熊谷の両キャンパスに設置された図書館は、約103万冊の図書と1万タイトルを超える学術雑誌のほか、電子資料やデータベース、視聴覚資料などを所蔵し、なかには「田中啓爾文庫」や「河口慧海文庫」など、特色ある貴重な資料も所蔵しています。また蔵書検索OPACより一歩進んだ蔵書検索システム「ディスカバリーサービス」では、国内外の学術情報を網羅的にまとめて検索することができます。加えて、本学の学術研究・教育成果を「立正大学学術機関リポジトリ」で広く公開し、社会に還元するよう努めています。さらに品川キャンパスには「古書資料館」を設置し、和古書を中心とした専門資料を提供しています。また、両キャンパスには学生・教員・職員の主體的な学び・交流・発信の場として、「ラーニングコモンズ」を設置し、専門スタッフによるサポートデスクや利用案内の実施など、学修・研究・教育支援の役割を担っています。

### 古書資料館

2014年に品川キャンパスに開館した古書資料館は、和漢古書を中心に、特殊資料(卷子本・折本・函物等)、洋古書など4万冊を超える資料を所蔵する古書の専門図書館です。一般的な図書や雑誌とは異なる利用上の取り決めがありますが、開架室のすべての古書を書棚から“自分で”取り出し、閲覧することができます。また、古書資料館専門員が古書の利用相談を受け付けています。



奈良絵本『竹取物語』(立正大学古書資料館所蔵)

## ● 博物館

博物館は、2002年、本学開校130周年を記念し、創立以来学内の各所に分散所蔵されていた諸資(史)料を一括保管・一括公開することを目的に、総合博物館として熊谷キャンパス内に設置されました。「史学の立正大学」の伝統を象徴する博物館では、歴史・宗教・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料を収集・保管し、これらの調査研究を行って「博物館年報」「万吉だより」、展示図録などを刊行しています。館内では縄文時代の土器類をはじめ、日本のみならず海外の遺跡からの出土資料を体系的に展示しています。また、博物館学芸員資格取得を目指す学生の実習施設として活用するほか、移動展示・講演会などの活動も行い、学内外の教育・研究に寄与しています。



### 主な展示

#### ■ ネパール・ティラウラコット遺跡出土資料

立正大学インド・ネパール仏蹟調査団により発掘された資料。

#### ■ 吉田格コレクション

縄文時代研究の著名な学者・吉田格(1941年本学卒)によって寄贈された資料(縄文土器、骨角器、伊藤圭介蒐集石器など)。

#### ■ 撫石庵コレクション

眞鍋孝志氏(日本古鐘研究会会長)より寄贈されたアジア各地の梵音具(鐘・鐃など)を中心とするコレクション。

#### ■ 樺太出土資料

故・久保常晴立正大学名誉教授が樺太の地を調査した際に出土した資料。

#### ■ 熊谷キャンパス内出土資料

施設新築に際し、文化財保護法に基づく発掘調査により出土した資料。特に、縄文時代早期の土器群は貴重な資料として注目されている。

#### ■ 古代窯業遺跡出土の須恵器と瓦

本学考古学研究室が全国各地で実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料。

## ● 文書館

文書館は、2024年、史料編纂室と石橋湛山研究センターを統合し開設しました。史料編纂室は、大学の貴重な記録を残すべく2014年4月に開設され、資料の調査・収集・整理・保存を行うとともに、大学史編纂事業に取り組んできました。一方の石橋湛山研究センターは、第16代学長石橋湛山に関する文献・資料・情報を収集するとともに、石橋湛山に関する研究プロジェクトを企画・実践し、その成果を公表してきました。文書館は、両機関を引継ぎ、立正大学学園の歴史および石橋湛山を含む関係者の事績を調査研究し、その成果を本学の発展に資することを目的にしています。

### 展示施設

文書館では、大学史への興味関心を高める活動の一環として常設・企画展示を実施しています。常設・企画展示は、150周年記念館内の「立正大学ロータスギャラリーB(13号館地下1階)」にてどなたでもご覧いただけます。



### 主な企画展示

#### ■ 写真で見る文学部100年のあゆみ

文学部創設100周年を迎えた2024年に、立正大学文学部主催・文書館協力にて開催しました。

#### ■ 150周年記念写真展

150周年を迎えた2022年に、「入学式・卒業式」「戦時下の立正大学」といったテーマを設け、7会期に亘って開催しました。

# 進路・就職支援

キャリアサポートセンターでは、「キャリア形成支援」「就職活動支援」「資格取得支援」を3つの柱とし、学生が卒業後の社会生活や職業生活を行う上で基盤となる知識や技能を、より効果的に習得できる体系的な支援を行っています。1年生から段階的かつ継続的に多彩なプログラムに参加することができます。



品川キャリアサポートセンター



熊谷キャリアサポートセンター

## ● キャリア支援の3つの柱

### キャリア形成支援

自分の将来のライフキャリアを考えながら自らキャリアデザインを設計する力を身に付ける科目を開講しています。

### 就職活動支援

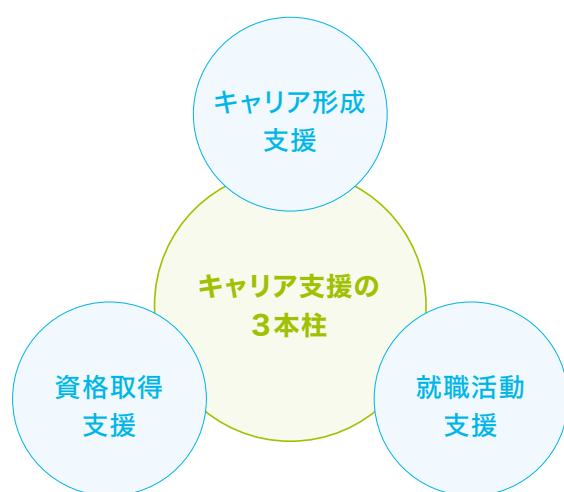
就職活動に向け、目的に合わせた多彩なプログラムを行っています。「今すべきこと・準備」を着実に進めることができます。また、社会で活躍をされている採用担当者や公務員の方々にもご協力をいただき、求められる人物像等も学ぶことができます。

#### 〈主なプログラム〉

- 就職ガイダンス
- キャリアアワー(セミナー・ワークショップ)
- 学内合同企業説明会
- 面接対策セミナー

### 資格取得支援

大学生としての基礎学力・専門知識に加え、社会で必要とされるスキルを身に付けることができる各種資格対策講座を開講しています。学外で受講するよりも低額な費用で受講することができます。また、公務員受験に向けた採用試験対策講座も開講しています。



学生が卒業後の社会生活や職業生活を行う上で基盤となる知識や技能を、より効果的に習得できる体系的な支援を行っています。

## ● キャリア相談(個別進路相談)

進路・就職に関わるあらゆる内容に関し、1年次より常駐している専門のキャリアカウンセラーに相談することができます。卒業後の将来に向けた漠然とした不安はもちろん、履歴書・エントリーシートの添削や面接対策まで学生一人ひとりに対し、きめ細やかな支援をしています。



## ● キャリア実習[大学提携型就業体験]・インターンシップ

大学と企業・団体で提携した実習を行う授業として2・3年生対象の「キャリア実習[大学提携型就業体験]」、3年生対象の「インターンシップ」を開講しています。

事前・事後授業、夏期休業期間の就業体験を通じて、将来の進路について自らの適性・能力を考えながら職業観を育成することを目的としています。





# 課外活動団体と強化クラブ

本学には約100団体の課外活動団体があり、体育会、文化団体、学術研究団体、スポーツ活動団体等、バラエティに富んでいます。そのうち硬式野球部、ラグビー部、サッカー部を強化クラブとして指定し、文武両道の精神の下、競技活動と学業の両立に努め、目標達成に邁進しています。

## ●ラグビー部



ラグビー部は1965年に愛好会として発足、86年に強化クラブに認定され、2004年、関東大学リーグにて初の1部昇格を成し遂げました。その後、2部に降格しましたが、2021年に1部復帰を果たし、2025年度は創部以来初の4期連続のシーズンとなります。次なる目標「全国大学ラグビーフットボール選手権大会出場」を目指して厳しい練習に臨んでいます。女子は、大学日本一を目指して練習に励んでいます。将来は日本代表として世界大会、ワールドカップでの活躍が期待されます。

## ●硬式野球部



硬式野球部は1949年に発足後、64年に「戦国東都」といわれる大学野球屈指の東都大学野球連盟に正式に加盟致しました。2018年には9年ぶりとなるI部リーグ優勝、明治神宮野球大会優勝を果たし、再び大学日本一の栄光を手に。未だ成し遂げられていない全日本選手権大会で優勝し、大学日本一となることを目標に掲げ日々練習に取り組んでいます。

## ●サッカー部



サッカー部は1975年に強化クラブとして認定され、「社会で活躍できる人材を輩出する」ことをモットーに活動しています。日々の練習やプロチームとの強化試合、人材育成の面でさまざまな取り組みを行い、年々着実に力をつけています。2019年、悲願であった全国大会である総理大臣杯、全日本大学サッカー選手権大会出場を果たし、共に全国ベスト8という記録を立正史に刻みました。

## ●令和6年度 課外活動実績

### 体育会陸上競技部 駅伝部門

第101回 東京箱根間往復大学駅伝競走予選会 32位



### 体育会水泳部

第100回 日本学生選手権水泳競技大会 4名出場

### 体育会柔道部

2024年度 全日本学生柔道優勝大会 1名出場

### 体育会拳法部

2024年 日本拳法東日本総合団体選手権大会  
東日本大学新人戦 団体準優勝

2024年 日本拳法東日本総合団体選手権大会 技能賞1名受賞

### 体育会排球部

アクティオ杯ビーチバレージャパンカレッジ 第36回 全日本ビーチバレーボール選手権大会 決勝トーナメント出場(個人)

### 体育会弓道部

第72回 全日本学生弓道選手権大会 女子団体決勝進出

### 体育会射撃部

2024年度 全日本学生スポーツ射撃選手権大会 女子団体出場  
2024年度 全日本学生スポーツ射撃選手権大会 3名出場



# 付属校・準付属校

## 【付属校】 立正大学付属立正中学校・高等学校

立正大学付属立正中学校・高等学校は1904年に日蓮宗大学林中等科として現品川区大崎の地に誕生し、2013年に大田区西馬込の地で新たなスタートを切りました。毎年1500名近い中高生が、建学の精神や進路教育に基づいたさまざまな行事、キャリア教育などを通じて、社会で活躍できる人間形成に日々勤しんでおります。また付属校の利点を生かした高大連携では、大学講義聴講制度や出張授業、教職員によるガイダンスなどを行い、生徒が大学を身近に感じ、その存在意義や必要性の理解が深まるよう努めております。そのため、卒業生の約9割が4年制の大学に進学しており、その多くが本学に進学しています。

〒143-8557 東京都大田区西馬込1-5-1 TEL 03-6303-7683 URL [www.rissho-hs.ac.jp/](http://www.rissho-hs.ac.jp/)



## 【準付属校】 学校法人淞南学園 立正大学淞南高等学校

本校は、2001年に準付属校となり、本年で24年目を迎えます。2021年、創立60周年を機に、本校はスクールミッションを「バランス感覚のあるリーダーの育成」へと刷新しました。独自の教育プログラムであるモラリストデザイン・アスリートデザインにより、生徒一人ひとりが「なりたい自分」に向かって挑戦できる力を育んでいます。近年は女子バスケットボール部の創部や通信制課程の開校など、学びの選択肢が広がっています。通信制では多様なライフスタイルに対応し、一人ひとりの夢を柔軟にサポートします。通信制開校に伴い作成した新ロゴに込めた3つの「S」は、本校の教育理念を象徴。淞南はこれからも、生徒の挑戦と成長を支える学校であり続けます。

〒690-8517 島根県松江市大庭町1794-2 TEL 0852-21-9634 URL [www.shonangakuen-h.ed.jp](http://www.shonangakuen-h.ed.jp)



# 立正大学校友会

立正大学校友会は学長が会長となり、在学生、在学生保護者ならびに保証人、卒業生、現元教職員を会員とし、同窓会、橘会（保護者の会）、郵政会等各種団体が構成団体として所属しています。校友会として、学生支援・卒業生支援、各種親睦行事や構成団体支援、大学学園振興賛助などの事業を通じ、卒業生と在学生ならびに在学生保護者の方が交流できる機会を多く設け、大学発展のために貢献してまいります。

## ● 学生支援事業

校友会として下記学生支援を行なっています。成績優秀奨学生、入学・卒業記念品贈呈、課外活動助成・課外活動特別助成、海外インターンシップ・ボランティア活動支援、英会話ラウンジ運営支援、震災・特別事情等による困窮学生向け支援、その他在学生に関する各種支援、校友の集い・ホームカミングデー開催、保護者向け相談会（保護者懇談会）



グッズ ※状況により内容は変更します。

## ● 情報発信について

校友会ホームページ、SNS (Instagram・LINE等) の活用ならびに校友会報・学園新聞で大学の近況や在学生・卒業生の活動や活躍、各種団体の活動、行事等をお伝えします。在学生・在学生保護者・卒業生等の交流の場として活用いただけるよう充実に努めております。

校友会ホームページでは、大学イベントや校友会イベント、校友の皆さまの活躍等、情報を随時発信しています。



ホームカミングデー：同窓会物産展の様子

## キャンパス案内



### 品川キャンパス

〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16

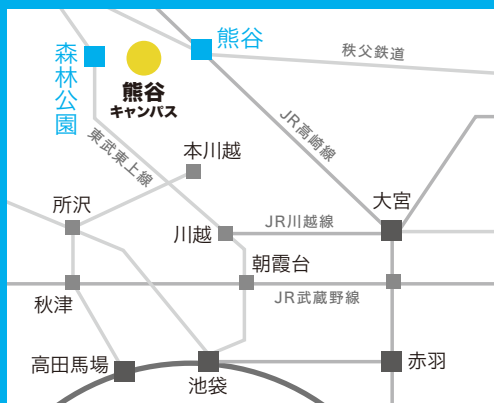
#### Access .....

大崎駅、五反田駅から徒歩5分

- 大崎駅 [JR山手線、湘南新宿ライン、埼京線、りんかい線]
- 五反田駅 [JR山手線、都営地下鉄浅草線]

大崎広小路駅 [東急池上線] から徒歩1分

不動前駅 [東急目黒線] から徒歩13分



### 熊谷キャンパス

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

#### Access <在学学生はバス料金無料> .....

熊谷駅よりバス10分

- 熊谷駅 [JR高崎線、湘南新宿ライン、新幹線、秩父鉄道]
- 南口よりバス「立正大学」行  
または「森林公園駅」行、「立正大学」下車

森林公園駅よりバス12分

- 森林公園駅 [東武東上線]
- 北口よりバス「立正大学」行  
または「熊谷駅南口」行、「立正大学」下車

## お問い合わせ

### ■経営企画部広報課

〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16

TEL 03(3492)5250 FAX 03(3493)9068

## 発行元

立正大学 経営企画部広報課

## 公式WEB

[www.ris.ac.jp](http://www.ris.ac.jp)